

平成29年度農業後継者特別支援事業

事業実施主体名 瀬戸内町担い手育成総合支援協議会

1 取組概要

本町では営農研修施設を活用した就農希望者の受入体制があり、パッションフルーツの技術習得を主体に就農者の確保・育成に努めている。しかし、施設投資や労働力の観点から、パッションフルーツ専作型では安定経営の維持が困難である。

そこで、複合品目として柑橘類に関心のある新規就農者群を対象として、柑橘の経営・技術に関する学習プログラム（基礎講座、事例研修等）に取り組んだ結果、平成29年3月に『瀬戸内かんきつ技術研究会』を設立するに至った。本年度においては、当該研究会の活動を本格化しながら、個々の資質向上と高品質多収を実現可能な技術体系の習熟に努めた。

2 実施状況

活動内容	時期	場所	参加者
新規就農者育成検討会	4月～3月 (月例開催)	瀬戸内町役場・合庁	関係機関(各10名前後)
学習会(春季)	4月5日	瀬戸内町内 (室内・現地)	農家(17), 関係機関等(5)
〃(夏季)	7月4日		農家(10), 関係機関等(3)
〃(秋季)	9月7日		農家(12), 関係機関等(9)
〃(冬季)	1月16日		農家(27), 関係機関等(6)
かんきつ技術講演会	9月6日	瀬戸内町役場	農家(16), 関係機関等(7)
中晩柑事例調査	11月14日～16日	出水市・熊本県	農家(7), 関係機関等(3)
温州事例調査	12月7日～8日	長崎県	農家(16), 関係機関等(6)



【現地での春季学習会のようす】



【かんきつ技術講演会のようす】

3 結果概要

- (1) 瀬戸内町農林課と大島支庁農政普及課で組織する『瀬戸内町新規就農者育成検討会』を月例開催し、その中で新規就農者群の経営・技術に関する指導や変化の過程に関する個々の情報を相互に共有して、以後の支援に役立つ体制が構築できた。
- (2) 平成29年度末に設立した『瀬戸内かんきつ技術研究会(新規就農者群13名を含む全17名)』の活動を本格化させたことで、定期的に学習する機能をもつ母体が創られた。

- (3) 施設パッションフルーツ等に強く依存した経営を展開している新規就農者群に対して、たんかんを主とするかんきつ類を経営に組み合わせることの有効性を強く意識づけることができ、経営形態が大きく変化した。
- (4) 既存のかんきつ栽培技術と異なり、現在の社会情勢や地域事情を十分に踏まえた新たな技術体系について学習を重ねた結果、計画密植栽培やせん定改善、葉面散布利用などに積極的に取り組む動きが醸成された。
- (5) 地域への問題提起を含む報告書や実践的な栽培暦を作成し、会員に提案できた。

【研究会員のうち新規就農者群の経営規模の変化】

農家名	品目名	経営規模の推移			摘要
		平 28 年 (前年)	平 29 年 (現在)	今後 (1~2 年後)	
A	パッションフルーツ	1 2 a	1 2 a	1 2 a	次世代人材投資事業給付中
	たんかん	5 a	1 3 a	3 3 a	
	ピタヤ	2 a	2 a	2 a	
B	パッションフルーツ	1 5 a	1 0 a	1 0 a	次世代人材投資事業給付終了 認定農業者
	たんかん	1 7 0 a	1 7 0 a	1 7 0 a	
	津之輝	5 5 a	5 5 a	5 5 a	
	早生温州		1 5 a	1 5 a	
C	ミニトマト		5 a	5 a	H29 就農 (認定新規就農者)
	アボカド (露地)	-	8 a	8 a	
	アボカド (施設)	-		9 a	
	たんかん	-	3 a	3 a	
	津之輝	-	1 a	1 a	
D	パッションフルーツ	1 8 a	1 8 a	1 8 a	既存園地購入
	たんかん		5 0 a	5 0 a	
E	パッションフルーツ	9 a	9 a	1 0 a	次世代人材投資事業給付中 H28 就農 (認定新規就農者) 青年等就農資金借受中
	かぼちゃ (抑制)	5 a			
	かぼちゃ (春)		5 a		
F	たんかん		1 0 a	3 0 a	次世代人材投資事業給付予定 H29 就農 (認定新規就農者) 青年等就農資金活用予定
	パッションフルーツ	-	1 0 a	1 0 a	
	たんかん	-		2 0 a	
	アボカド	-		1 0 a	
	その他熱帯果樹	-		1 0 a	
	農産加工	***		***	
	トマト他野菜	-	5 a	5 a	
G	花苗	-	***	***	福祉法人経営
	しいたけ (楢木)	-	***	***	
	アボカド (露地)	-	2 a	2 a	
	パッションフルーツ	-		4 0 a	
	たんかん	-	3 0 a	4 0 a	
	津之輝	-	5 a	5 a	

【一連の活動を通じて作成された報告書・指南書（栽培暦）】



報告書

指南書（栽培暦）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作業	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植	定植
管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理	定植後の管理
収穫												

4 今後の課題、取組

- (1) 研究会員の一層の技術習熟度向上
- (2) 研究会員の経営規模拡大
- (3) 栽培暦に掲載された技術に関する実際の取組事例の有効性確認・検証
- (4) 定植1年目、2年目園地の早期成園化をめざした重点支援